

ケニアにおける消化器疾患診療の人材育成支援（内視鏡領域）

① 現地の状況やニーズなどの背景情報

ケニアでは近年NCDsの死因割合が40.8%と増加傾向であり、その中でがんは死因の3位・年間死亡者数の7%を占める。特に消化器がん(食道・胃・大腸)は罹患数及び死亡数の上位であり、消化器疾患の診療水準向上に向けた人材育成が急務である。

② 事業目的

消化器疾患の診療水準向上に不可欠な消化器内視鏡に関する教育活動を産学協同で行い、ケニアの消化器疾患の診療水準向上に向けた人材育成を図る。

③ 事業の概要

オリンパス株式会社が実施機関となり、新興国医師向けの研修実績が豊富な九州大学病院国際医療部の協力を得て、ODAにより日本製内視鏡機器が設置されたケニヤッタ国立病院及び地方医療機関の医療従事者を対象に研修活動を実施する。

④ 期待される成果とその後の波及効果

- － 本事業による内視鏡専門医の育成および教育体制の基盤構築を通じて、ケニア国民に対する消化器疾患診療の水準向上、特にがんの早期発見・早期治療の普及を進め、健康寿命の延伸に貢献する。
- － 本事業を通じて日本の最新医療技術及び医療機器の有用性の認知度向上を図り、将来的にケニア国内での普及・定着を目指す。

